

テーマ型協働推進事業に対するコメント概要

事業名	アートと対話でひらく「いてくれてうれしい」今治の未来					
実施団体名	社会福祉法人 来島会					
協働団体	①今治市障がい福祉課 ②今治市社会福祉協議会 ③愛媛県社会福祉事業団					
テーマ提示課 テーマ	市民参画課 多文化・共生社会推進室 共生社会推進の取り組み					
事業概要	<p>【事業目的】</p> <p>①多様な市民が楽しみながら交流と相互理解を深める機会を創出する。 ②共生社会への対話の場により、意識啓発と主体的な関与を促進する。 ③誰もが尊重され、その人らしく暮らせる共生の土壌を今治に醸成する。</p> <p>【事業内容】</p> <p>①11月1日-2日：プレ・イマバリ・パラピエンナーレKOSUGE-1-16巨大サッカーボードゲームでつながる！ ②11月1日：シンポジウム「体験を懸け橋に～協働する地域社会を考える」 ③12月17日、1月14日、21日、2月4日：地域文化講座「アートから地域を考える4つのレッスン」</p>					
補助額	市補助額	1,000,000 円	総事業額	2,089,043円	補助対象経費	1,596,533 円
コ メ ン ト	実施団体	<p><事業を実施しての効果></p> <p>【定量評価】</p> <p>①150名の来場、②50名の来場、③延べ55名の参加</p> <p>【定性評価】</p> <p>障がいや国籍などの違いによらない協働の体験を仕掛けることで、共生文化を楽しみながら体感してもらうことができた。またこれらを座学として整理することで、広く地域づくりへ関心のある層へ共生や包摂の意義を伝えることができた。</p> <p><事業を実施しての問題点></p> <p>まだまだ広く市民に対して発信できていないとはいえず、参加した層に偏りがあったことは否めなかった。</p> <p><問題点に対する解決策></p> <p>①商店街やせとうちみなとマルシェをはじめとする既存の取り組みと連携をして、地域への発信力を強化する。 ②年間を通じた取り組みとしていくことで、大きなイベントでの体験だけでなく地域への浸透を図る。</p>				
	市民活動推進委員	<p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・255名の参加。実施から成果。今後の展開を具体的に伝えることができています。 ・アートを通じた変化を感じられる。 ・事業の効果、問題点及び解決策、今後の取り組みを客観的、的確にとらえており、全体像が理解できる。 ・障がいや国籍などの違いによらない協働では、事業の企画運営から参加してもらうことで効果をあげることができるのではないかと。 ・中期的なビジョンもあり、今後の展開に注力される。 ・アート、巨大サッカーボード等で障がい関係なく活動していて良かったと思う。 ・多様な活動が実施され、目的に沿った事業となっている。今後も具体的な事業計画が組まれており、障がいへの理解等さらなる発展を期待したい。 ・アートと福祉を掛け合わせた取り組みで子どもと大人、障がい関係なく誰でも楽しめる取り組みであったと思う。次年度開催される「イマバリ・パラピエンナーレ」本開催も楽しみである。 ・地域にあるもの、いる人とアートをつなぐ。楽しみです。 ・おんまぐ、みなとマルシェとの協働、続けていくことを頑張ってもらいたい。 				

テーマ型協働推進事業に対するコメント概要

事業名	アートと対話でひらく「いてくれてうれしい」今治の未来	
実施団体名	社会福祉法人 来島会	
コメント	テーマ提示課	<p><総評> 共生社会をアートの切り口で実施するという方法であった。国籍や文化、障がい等の壁を超える方法はアート、食、音楽、スポーツなどであると考えており、切り口としては大変良いと思う。 イマバリ・パラビエンナーレにも期待しているが、多くの方が巻き込める取り組みにしてほしい。</p>